

# 石川県知事選挙・県議補欠選挙の結果について

2018年3月12日 日本共産党石川県常任委員会

任期満了にともなう3月11日投票の石川県知事選挙で、日本共産党も加わる「石川県に新しい知事を誕生させる会」の小倉恵美候補は、72,414票(得票率20.06%)を獲得して善戦しましたが、残念ながら勝利することはできませんでした。こくら候補とご支持、ご支援していただいた県民のみなさんに心から感謝申し上げます。また、「誕生させる会」に結集されたすべての個人・団体のみなさんの最後まで奮闘に心から敬意を表するものです。

同時に行われた県議補欠選挙・金沢市区(定数1.4名立候補)で、日本共産党の亀田良典候補が14,154票(得票率13.95%)を獲得しましたが、第3位で議席に及びませんでした。告示直前の立候補となりましたが、昨年の総選挙比例票を2,271票上回りました。ご支援ありがとうございました。

詳細な総括は、今後、ともにたたかったみなさんのご意見もお聞きしながらさらに深めていきます。

今回の知事選は、日本共産党をのぞく、自民党を中心とした「オール与党」(自民党、公明党、未来石川、民進党、社民党)の推薦を受けて、知事としては全国最多となる7選をめざした現職知事と、日本共産党と立憲民主石川(サポート立憲)、いしかわ市民連合、「憲法を生かす新しい県政をつくる石川県民の会」などが推薦した「誕生させる会」の小倉候補との一騎打ちのたたかいとなりました。

小倉候補と私たちは、「オール与党県議会」とのなれあいを背景にした、多選の弊害と県民不在の県政、大型開発偏重で借金を増やし、県民の暮らしや福祉を置き去りにしてきた異常な逆立ち県政を告発して現職の7選ストップをかかげるとともに、活断層の上に建つ志賀原発の廃炉、再生可能エネルギーへの抜本的転換と能登振興を訴え、県民の命と安全に責任を果たす、県民とともに歩む県政への転換を訴えてたたかいました。こうした私たちの訴えが届いたところでは、「もう谷本はやめた。新幹線ばかり言ってるが、こっちは暮らしが大変」「あまりに長い。新しい風を吹き込んでほしい」「豊かな能登に原発はいらない」など、立場を超えた共感が広がりました。

これに対し、現職は、JCがよびかけた公開討論会への出席を拒否する一方、もっぱら新幹線効果と敦賀延伸、投票率アップの競い合いを煽る訴えだけで、知事の判断が大きく問われる原発については最後まで一言も語らず、逃げつづけ、争点そらしに終始しました。投票率が39.07%と過去最低となった大きな要因の一つに、現職のまともな論戦を徹底して避けた姿勢があることを指摘しなければなりません。7選という結果も、けっして県民の積極的な信任をえたものではないことも明白です。

今回の知事選では、日本共産党と立憲民主石川、いしかわ市民連合、そして「県民の会」がしっかりと手をつなぎ、多くの市民、団体とともに「新知事を誕生させる会」をつくって選挙戦をたたかいました。立憲民主の桑原共同代表が選挙闘争本部長として選挙戦の先頭に立ち、市民連合は、要求や政策課題にもとづくトーク集いに連日とりくみ、共産党と「県民の会」は選挙戦そのものを土台から支えて奮闘するなど、それぞれが持ち味を発揮しながら、お互いをリスペクトして、持てる力を発揮して選挙戦をたたかいました。県議補欠選挙では、立憲民主石川の栗森・桑原両共同代表が、選挙戦最終盤に亀田候補の勝利を訴える応援演説にも立ちました。市民と野党の共闘で新しい連帯のきずなが生まれ、育ったことは、今後に生きるかけがえのない財産となりました。

安倍暴走政治が、外交でも内政でも大破綻に直面するなか、国政でも、地方政治でも、いよいよ市民と野党の共闘が政治を変える新しい時代を迎えています。9条改憲を絶対に許さないたたかいははじめ、県民と力をあわせた運動をさらに大きく広げて、安倍暴走政治を追い詰め、県民に背を向けた県政の転換をめざしてさらに奮闘する決意です。

そして、国政と地方政治を変えるたたかいの決着は、来年の統一地方選挙と参議院選挙へと舞台を移します。今度の選挙戦でも痛感した党の自力の弱点の打開へ、真剣に自己分析を深め、何としてもこれを打開し、共闘の勝利と日本共産党の躍進を勝ちとるため全力をつくします。ひきつづくご支援を心からお願ひするものです。